

## 第七章 産業

## 第一節 總説

清國に於ける未發の寶庫

新疆の地は、既に地誌第一章に於て叙述したる如く、極めて廣大なる面積を有すと雖も、其の位置甚だしく支那帝國の西端に僻在し、加ふるに高山巨川廣湖大沙漠を以て、殆んど全地域を充塞せり。故に之を側面より觀察すれば、單に荒漠不毛の戈壁地帯なるに似たるも、實地深く内容を洞察すれば、實に意外なる天惠地福を寄與せらるゝ無限の富士なりとす。予は彼の地に旅行し、到る處の山野河湖の邊に駒を停め、無限の遺利を目撃して、一驚を喫せざるを得ざりき。予素より實業に就ては専門の眼識を有せざるも、眼に映じ物に觸れて得たる所の事實と所感を左に記載し、聊か實業家の參考に供せんとす。

新疆省の山中は、到る處鑛物に富み、五金悉く藏し、寶石、石炭、石油、硝石等あらざるは無し。又許多の湖邊と山野には、無限の天然鹽を産し、沙島の間には、佳良なる穀